

実習前後における保育者効力感の システムティック・レビュー —保育・幼稚園実習は学生の保育者効力感を高めたのか—

香曾我部 琢 (宮城教育大学)

キーワード: 保育者効力感, システムティック・レビュー, メタ分析

実習の尺度としての「保育者効力感」

養成期において、実習教育の重要性、教育的な効果については、これまで数多くの先行実践と研究において示されてきた。とくに、これまでの多くの先行研究では保育者養成における保育所・幼稚園実習の効果を推し量る尺度の一つとして「保育者効力感」に焦点が当てられ、その知見が積み重ねられてきた。

しかしながら、実習前後の保育者効力感の変化を対象とした先行研究を比較すると、実習が保育者効力感に与える影響に関する研究の結果に異なる点が多々みられる。例えば、1 年次の 7~10 月に実施された実習前後の保育者効力感を測定した塚本(2010)らと小藺江(2011)、胡(2014)らの 3 つの研究を比較しても、同じ 1 年次でかつ実習内容も観察実習が中心であり差が無い。しかし、塚本(2010)らではすべての項目に有意な差が見られなかったが、小藺江(2011)では、項目 8 と 10 が有意に低くなったことを、胡(2014)らでは項目 9 が有意に低くなったことを示した。

そこで、本研究では、実習前後の保育者効力感の変化についてシステムティックレビューを行うことで、実習が保育者効力感に与える影響について検証を行おうと考えた。そして、保育者養成における実習教育の意義に関するエビデンスを示し、養成期における実習教育の在り方について新たな視座を示そうと考えた。

研究の方法

PICO を用いた疑問の定式化

本研究の目的については、JBI が示した PICOS(Population, Intervention, Comparator, Outcome, Study Design)をもとに作成した(Table1)。

研究対象 (Population) は、保育者養成校の学生とした。介入(Intervention)は、保育所もしくは、幼稚園における実習とし、比較測定方法

(Comparator)は介入前後における同一集団に対して実施した評価尺度の各項目の平均値の t 検定とした。評価尺度(Outcome)は、三木・桜井(1994)が作成した保育者効力感尺度 10 項目とした。また、研究デザイン(Study Design)は、適切にデザインされた準実験研究とした。

論文の検索と選択基準

今回用いたデータベースは、CiNii を用い、補完的に Google Scholar を用いた。データベースで検索された論文の中で、一番古い日付が 1995 年 8 月 31 日で、最新の論文が 2016 年 10 月であったため、その期間に発刊された論文 115 の内、19 の重複論文などを削除し、最終的に 15 論文を採択することとした。

系統的検索の手続きについては、データベースから得られた論文の内、重複論文を除外し、さらにタイトルと抄録のスクリーニングから関連の無い論文を除外し、その残りの論文の本文を PICOS で示した基準で精査して、論文を選択する

選択した論文からのデータ抽出

選択した論文から、(a)対象者の年次、(b)調査時期、(c)介入(実習)の内容、(d)項目毎の平均値と母数、(e)検定の結果、以上 5 点をデータとして抽出し、一覧としてまとめる。

結果と考察

実習の違いによって高まる異質性

メタ分析の結果、保育所実習Ⅰ～Ⅲ、幼稚園実習Ⅰ～Ⅲなどの実習内容を統制せずに、メタ分析を行った結果、異質性が高いことが明らかになった。そこで、介入前後の実習の種類を統制し、観察中心に実施された保育所実習Ⅰと、責任実習が実施された保育所実習Ⅲと幼稚園実習を分けてメタ分析を行った。その結果、いくつかの項目について効果の差異が見られた。詳細は、発表当日に資料を配布する予定である。